



2025年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2024年7月11日

上場会社名 株式会社カンセキ 上場取引所 東
コード番号 9903 URL <https://www.kanseki.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大田 垣 一郎
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 熊澤 達郎 (TEL) 028-659-3112
四半期報告書提出予定日 2024年7月12日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第1四半期の業績 (2024年3月1日~2024年5月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第1四半期	9,324	2.1	193	176.3	194	143.0	196	312.6
2024年2月期第1四半期	9,130	—	70	—	79	—	47	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2025年2月期第1四半期	26	33	26	16
2024年2月期第1四半期	6	38	6	35

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第1四半期	26,697	—	6,277	23.3	—	—
2024年2月期	25,495	—	6,146	23.9	—	—

(参考) 自己資本 2025年2月期第1四半期 6,219百万円 2024年2月期 6,092百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2024年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
2025年2月期	—	—	—	—	—	—
2025年2月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の業績予想 (2024年3月1日~2025年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	18,400	2.5	250	—	233	—	219	—	29	37
通期	37,000	1.8	450	—	420	—	390	—	52	31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年2月期1Q	8,050,000株	2024年2月期	8,050,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2025年2月期1Q	593,922株	2024年2月期	593,922株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2025年2月期1Q	7,456,078株	2024年2月期1Q	7,456,078株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間(2024年3月1日から2024年5月31日まで)における我が国経済は、ウクライナ情勢の長期化などの影響によるエネルギー・原材料価格の高騰や円安の進行を起因とする物価上昇、日銀のマイナス金利解除などにより、個人消費が停滞するなど先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社は「住まいと暮らしを豊かにするための商品とサービスを提供し、地域の皆様の生活文化に貢献する生活快適創造」のミッションのもと各種取り組みを実施してまいりました。

営業面では、2025年2月に創立50周年を迎えることから、2024年3月から2025年2月を「創業50周年イヤー」と位置づけ、地産地消の取り組みや地域のお客様の買い物支援事業であるスマイル便の強化、未来を担う子供たちへの体験型ワークショップの提供など地域貢献への取り組みを積極的に進めてまいりました。また、創業50周年記念ポイントセールや抽選会等を開催し、ホームセンター事業における日用品などの売上を押し上げました。そのほか、新型コロナウイルスの行動制限緩和によるイベント再開や外出機会の増加により、WILD-1事業におけるレジャー用品や業務スーパーの値ごろ感のある食料品の売上が堅調に推移いたしました。しかしながら、新型コロナウイルスの行動制限期間中に好調であったホームセンター事業におけるDIY関連商品やWILD-1事業におけるキャンプ用品は、引き続き苦戦が続くこととなりました。経費面では、人員の効率的運用や既存契約の見直し、新規出店費用の抑制など経費削減策を実施いたしました。

設備面では、新形態の異業態併設型店舗として、2024年3月にオフハウス併設店舗「ハードオフさくら氏家店(栃木県さくら市)」、2024年5月にホームセンター併設店舗「業務スーパー栃木そのべ店(栃木県栃木市)」を出店いたしました。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は93億24百万円(前年同四半期比2.1%増)、営業利益は1億93百万円(前年同四半期比176.3%増)経常利益は1億94百万円(前年同四半期比143.0%増)四半期純利益は1億96百万円(前年同四半期比312.6%増)となりました。

なお、当社の報告セグメント事業別業績は次の通りです。

[ホームセンター事業]

ホームセンター事業においては、創業50周年に係る販売促進効果や3月の気温が前年に比べて低温であったこと、4月・5月の天候が比較的安定していたことから、日用品、家庭用品、食料品の売上が堅調に推移いたしました。しかしながら、創業50周年記念で実施した10倍ポイントセールや低荒利益率商品の売上が好調であったため、売上原価が増加することとなりました。

これらの結果、ホームセンター事業の営業収益は、43億15百万円、(前年同四半期比6.1%増)セグメント利益は、1億40百万円(前年同四半期比6.0%減)となりました。

[WILD-1事業]

WILD-1事業においては、2024年4月に創業40周年を迎えたことから、他メーカーとのコラボ商品の販売やキャンプ・登山・釣りなどのイベントを実施し、多くのお客様からご好評をいただきました。また新型コロナウイルス行動制限緩和による外出機会の増加により、ハイキング用品やトラベル用品、簡易型ファニチャーなどレジャー用品の販売が堅調に推移いたしました。しかしながら、主力販売商品であるキャンプ用品が、過熱したキャンプブームの揺り戻しから、低調に推移いたしました。

これらの結果、WILD-1事業の営業収益は、21億51百万円(前年同四半期比12.0%減)、セグメント利益は、9百万円(前年同四半期はセグメント損失65百万円)となりました。

[専門店事業]

業務スーパー店舗では、新型コロナウイルスの行動制限緩和により、地域のお祭りやイベントなどの業務需要が回復すると同時に、一般のお客様による利用が継続的に増加しており、売上高が前年同期を上回る状況が継続しています。

オフハウス店舗では、金相場の上昇により、金製品を中心とした宝飾品の売上が好調に推移いたしました。また商品仕入形態の見直しなどにより、荒利益率が改善いたしました。

設備面においては、当社として初めての試みとなる異業態併設型店舗として、2024年3月にオフハウス併設店舗「ハードオフさくら氏家店(栃木県さくら市)」、2024年5月にホームセンター併設店舗「業務スーパー栃木そのべ店(栃木県栃木市)」を出店いたしました。両店とも、併設店舗への波及効果が見受けられると同時に、当初計画を上回る業績が継続しています。

これらの結果、専門店事業の営業収益は、28億90百万円(前年同四半期比8.8%増)、セグメント利益は、2億60百万円(前年同四半期比39.8%増)となりました。

[店舗開発事業]

店舗開発事業では、不動産賃貸収入は堅調に推移いたしました。しかしながら、アミューズメント施設収入については、新型コロナウイルスの行動制限緩和により、外出機会やレジャーの多様化などの影響により、ゲームセンターへの来店客が落ち込み、前年実績を下回ることとなりました。

これらの結果、店舗開発事業の営業収益は、86百万円(前年同四半期比4.0%減)、セグメント利益は、32百万円(前年同四半期比10.8%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末における総資産は、266億97百万円となり、前事業年度末に比べ12億2百万円の増加となりました。主な要因としては、現金及び預金の増加5億47百万円、売掛金の増加2億51百万円、商品の増加5億8百万円によるものであります。

負債は、204億20百万円となり、前事業年度末に比べ10億72百万円の増加となりました。主な要因としては、買掛金の増加8億69百万円、電子記録債務の増加1億37百万円、短期借入金金の増加3億20百万円によるものであります。

純資産は、62億77百万円となり、前事業年度末に比べ1億30百万円の増加となりました。主な要因としては、その他有価証券評価差額金が68百万円減少し、当第1四半期累計期間において四半期純利益1億96百万円を計上したことによるものであります。この結果、当第1四半期会計期間末における自己資本比率は23.3%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の第2四半期(累計)及び通期の業績予想につきましては、2024年4月11日に公表しました業績予想に変更はありません。

※ 上記予想は、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年2月29日)	当第1四半期会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	748,485	1,296,404
売掛金	692,643	943,859
商品	7,300,426	7,808,892
貯蔵品	16,178	15,744
その他	614,304	551,724
貸倒引当金	△104	△119
流動資産合計	9,371,933	10,616,506
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,545,468	2,564,441
土地	7,263,670	7,231,770
その他(純額)	773,343	848,371
有形固定資産合計	10,582,482	10,644,584
無形固定資産		
	440,632	429,619
投資その他の資産		
投資有価証券	3,200,995	3,102,611
敷金及び保証金	1,804,967	1,800,315
その他	83,622	95,032
投資その他の資産合計	5,089,586	4,997,959
固定資産合計	16,112,700	16,072,163
繰延資産	10,388	9,197
資産合計	25,495,023	26,697,867
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,541,714	3,411,047
電子記録債務	1,120,557	1,258,052
短期借入金	3,930,000	4,250,000
1年内返済予定の長期借入金	1,483,164	1,490,771
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払法人税等	25,401	1,061
賞与引当金	-	80,984
ポイント引当金	4,167	1,321
契約負債	416,218	458,959
資産除去債務	77,134	55,153
その他	775,515	730,629
流動負債合計	10,473,873	11,837,981
固定負債		
社債	600,000	550,000
長期借入金	6,810,341	6,660,853
退職給付引当金	513,479	490,596
資産除去債務	251,054	251,205
その他	699,967	630,158
固定負債合計	8,874,842	8,582,812
負債合計	19,348,716	20,420,793

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年2月29日)	当第1四半期会計期間 (2024年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,926,000	1,926,000
資本剰余金	2,448,680	2,448,680
利益剰余金	610,496	806,784
自己株式	△389,287	△389,287
株主資本合計	4,595,889	4,792,176
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,496,382	1,427,769
評価・換算差額等合計	1,496,382	1,427,769
新株予約権	54,035	57,127
純資産合計	6,146,306	6,277,074
負債純資産合計	25,495,023	26,697,867

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2023年3月1日 至2023年5月31日)	当第1四半期累計期間 (自2024年3月1日 至2024年5月31日)
売上高	9,130,207	9,324,020
売上原価	6,591,584	6,819,953
売上総利益	2,538,622	2,504,066
営業収入	128,902	122,590
営業総利益	2,667,524	2,626,657
販売費及び一般管理費	2,597,359	2,432,766
営業利益	70,164	193,891
営業外収益		
受取利息及び配当金	23,736	23,954
補助金収入	6,611	5,827
受取保険金	850	180
その他	5,566	1,522
営業外収益合計	36,765	31,484
営業外費用		
支払利息	24,580	27,906
支払手数料	1,077	1,486
その他	1,395	1,905
営業外費用合計	27,053	31,298
経常利益	79,875	194,077
特別利益		
固定資産売却益	-	289
特別利益合計	-	289
特別損失		
固定資産除却損	-	2,018
特別損失合計	-	2,018
税引前四半期純利益	79,875	192,348
法人税、住民税及び事業税	48,243	8,213
法人税等調整額	△15,935	△12,152
法人税等合計	32,307	△3,938
四半期純利益	47,568	196,287

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第4半期累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	ホームセン ター	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	4,065,835	2,445,937	2,655,924	89,941	9,257,638	1,471	9,259,109	—	9,259,109
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	4,065,835	2,445,937	2,655,924	89,941	9,257,638	1,471	9,259,109	—	9,259,109
セグメント利益 又は損失(△)	149,131	△65,389	186,410	36,828	306,981	1,471	308,452	△238,288	70,164

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない不動産事業等に伴い発生した付随的な収益であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△238,288千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△238,288千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	ホームセン ター	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	4,315,274	2,151,928	2,890,803	86,333	9,444,340	2,270	9,446,611	—	9,446,611
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	4,315,274	2,151,928	2,890,803	86,333	9,444,340	2,270	9,446,611	—	9,446,611
セグメント利益	140,235	9,284	260,690	32,864	443,075	2,270	445,346	△251,454	193,891

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない不動産事業等に伴い発生した付随的な収益であります。

2 セグメント利益の調整額△251,454千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△251,454千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において、WILD-1事業における商品評価損や減損損失を計上した結果、52億19百万円の当期純損失を計上しております。また、前事業年度末の純資産は61億46百万円（前事業年度比44.9%減）まで減少し、シンジケートローン契約について財務制限条項に抵触しております。これらの状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。しかしながら、借入先金融機関からは、財務制限条項への抵触に基づく期限の利益喪失の請求は行わない旨、書面にて承諾を頂いております。

また、このような状況を解消するために「創業50周年再起動」を経営スローガンに掲げ、各種諸施策の着実な実行などにより、2025年2月期における営業利益の確保に努めてまいります。これらに加え、当面の運転資金及び投資資金において、資金繰りに重要な懸念はないと判断していることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は存在するものの、重要な不確実性は認められないと判断しております。